

令和元年度第1回伊勢市障害者施策推進協議会手話言語等コミュニケーション推進部会 議事録

開催日時 令和元年7月19日(金)午後7時00分～8時25分
開催場所 伊勢市役所東館5-2会議室
出席委員 倉野直紀委員、奥山三重子委員、山本一枝委員、大屋隆委員、仲西弘委員、仲西正克委員
木戸智子委員、白前加余子委員
事務局 障がい福祉課長 他2名
通訳者 手話通訳者2名
傍聴者 なし

1、あいさつ

今年度、伊勢市消防本部において「Net119 緊急通報システム」の導入が予定されており、聴覚・言語機能障がい者の暮らしの中の障壁がわずかでも取り除かれることを目指している。

12月1日(日)シンフォニアテクノロジー響ホール伊勢(観光文化会館)において手話劇祭を開催する。

2、伊勢市手話通訳者派遣事業について

●事業実績資料を事前送付し、質問等に対する回答を当日配布した。

【質問要旨】

○手話通訳派遣依頼者数の推移

【各委員の主な意見】

○平成30年度派遣実績について知りたい

3、伊勢市要約筆記通訳者派遣事業について

●事業実績資料を事前送付し、質問等に対する回答を当日配布した。

【質問要旨】

○派遣通訳者の調整、登録通訳者数の内訳

【各委員の主な意見】

○今年度の伊勢市障がい者体育祭の派遣調整については、当日の朝までうやむやになっていた。昨年度も一部の通訳者に打診の連絡が届いておらず、市に連絡をとったところ「もう決まっているから結構です」と言われた案件があった。まずは、市の登録通訳者全員の回答を確認してから県へ依頼するようにしてほしい。

○派遣通訳者決定後「対象者不在のためキャンセル」となった依頼があった。差別解消法が施行されている中で、要約筆記者派遣が減っているように思う。

⇒市の行事は原則的には通訳者を配置する前提でいるが、事前の申出がなければ通訳者を配置しない場合もある。

⇒三重県聴覚障害者支援センターでの通訳者派遣も同様、差別解消法施行以降、通訳者派遣依頼は増加したが、聴覚障がい者からの申出がなくキャンセルする件数も増えている。

⇒参加者募集の際「手話通訳・要約筆記あります」と記載があれば、聴覚障がい者が参加しやすい。障がい福祉課からも(各部署へ)促しを。

- 要約筆記者養成講座修了者の登録について、資料を事前に送付し、質問等に対する回答を当日配布した。

【質問要旨】

- 「座学Ⅰ」の確認

【各委員の主な意見】

- 登録条件として「今年度受験する意思があること」「学習会に参加する意思があること」とあるが、確実な意志確認をお願いしたい。

- 手話通訳者・要約筆記通訳者派遣にかかる交通費単価変更についての提案

【提案要旨】

- 他地域の通訳者と混成派遣となった場合、同じ現場へ派遣されるにも関わらず交通費単価に差があるのが現状。三重県の派遣事業にかかる交通費単価が減額となった。伊勢市の派遣事業にかかる交通費単価も三重県の単価と同額とすることについてご意見を頂戴したい。行うなら、単価変更の開始時期は今後通訳者のみなさんと相談することとし、遅くとも来年度には開始したい。

【各委員の主な意見】

- 単価を下げることには抵抗がある
- 全体の意向としては、県の単価に合わせてもかまわない。

4、伊勢市手話言語条例にかかる施策について

- 取組み内容資料を事前送付し、質問等に対する回答を当日配布した。

【質問要旨】

- 「手話ふれあい広場」実施内容、小学校における手話学習の機会、映画「ゆずり葉」上映会実施予定数、保育士の手話習得、通訳者の検診結果、設置通訳者の待遇、全国手話検定試験受験料補助の対象者

【各委員の主な意見】

- 全国手話検定試験受験料補助について、先着順だが受付順の決め方は？
⇒申請方法が紙媒体による必要書類提出のみであるため、申請に必要な一式を受理した順。
- 全国手話検定試験受験料補助について、可否結果は関係ないのか？
⇒関係ない
- 手話奉仕員養成講座修了者をボランティア活動等、次の活動につなげる良い方法はないか？
⇒とこわか国体がボランティア募集をしていることを念頭に置き奉仕員を養成してはどうか。
⇒災害発生時、避難所等に通訳者が不在の際はボランティアの力を借りることも考えられる。奉仕員養成に災害時の学習を組み込んではどうか。
⇒災害ボランティアなど、具体的な呼びかけがあれば手話サークルとしても協力する。
⇒昨年度の奉仕員養成講座修了生のうち数名は市内手話サークルで活動している。講座修了後の活動が途切れているわけではない。
⇒奉仕員養成講座修了生を対象にステップアップ講座を開催すると良い。
⇒「講座の同期メンバーでもっと一緒に勉強したいから修了者のみの集まりを立ち上げたい」これが修了生の本音だと思う。修了者が集まれる場があると良い。既存のサークルだけでは日程等があわないこともあり、消滅してしまってもマンパワーがもっていない。

⇒以前、修了者だけで手話サークルを立ち上げたが数年で解散した経過がある。同じことを繰り返すのではないか。

⇒奉仕員養成講座の開始以降、多くの修了者が輩出されているがどこへ消えてしまったのか。このままでは（養成事業が）無駄である。修了者が集まれる場を作ったほうが良い。今後の検討課題としていく。

●伊勢市手話言語条例施策の推進状況見直しの件

【各委員の主な意見】

○見直しをするのであれば、現在国会上程中の「手話言語法」が決定した後が良い。伊勢市は様々な部署が頑張っている状況から、現時点で見直しの必要はない。今はこのまま頑張ってもらえば良い。

5、その他

●三師会への依頼について（要旨資料を事前送付した）

【各委員の主な意見】

○行政から関係機関へ文書を配布すれば良い

○市長名での文書提出が一番良いのではないか

○医療機関の診察室において、手話通訳者は医師の後方で通訳をするため医師は抵抗を感じるようだが、要約筆記通訳者は難聴者の横で通訳をするため医師にとっては抵抗がないようだ。

○関係機関への申し入れは良いが、方法については検討が必要。文書送付だけでは関係機関の反感を買う恐れがある。例えば、昨年度、リーフレット「きこえないんです～災害時の支援について～」を配布したときのように、“受診時にお願いしたいこと”についてのパンフレットを作成し周知・啓発してはどうか。

○なんらかの方法で進めていく